

サイエンスカフェの御案内

日 時 : 平成28年5月27日(金) 19:00~20:30

場 所 : 文部科学省情報ひろばラウンジ (旧庁舎1階)

東京都千代田区霞が関3-2-2

主 催 : 日本学術会議、文部科学省

テ ー マ : 日本の森林~その生理、生態、歴史

講 師 : 舘野 正樹さん 東京大学大学院理学系研究科附属日光植物園・准教授

ファシリテーター: 福田 裕穂さん 東京大学大学院理学系研究科長

内 容 :

日本列島は南北に長く、標高差も3,700m以上と大きいため、様々な森林が分布しています。沖縄などの亜熱帯には常緑広葉樹を中心とする森林が、また、西日本から東日本にわたる暖温帯には常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林が、また、東北地方の冷温帯や標高の高い山地などには落葉広葉樹林が、そして、北海道などには常緑針葉樹と落葉広葉樹の混交林が広がっています。どのような理由で、このような多様な森林の分布が決まるのでしょうか。

例えば、樹木の細胞が寒さに強いかどうかの違いで決まるのでしょうか?ところが、樹木の生理と生態についての研究によると、細胞が寒さに強いかどうかは、樹木の分布にさほど影響しておらず、冬期の吸水などの他の要因がより重要であることが分かってきました。

また、明るい場所で早く成長する種と暗い場所でゆっくりと成長する種が共存していることにより、森林が維持されていることもわかってきました。唯一の例外は落葉広葉樹林です。この森林には、暗い場所でゆっくりと成長する高木種はみられません。その理由は、森林の歴史を調べることで明らかになってきました。落葉広葉樹林は、人間の伐採による常緑針葉樹の消滅により成立したのではないかと考えられます。代表的な落葉広葉樹林であるブナ林で有名な白神山地も例外ではありません。つまり、白神山地のブナ林は天然林ではない可能性があるということです。

今回のサイエンスカフェでは、「生理」「生態」「歴史」といった様々な視点から、日本の森林について理解を深めていただければと思います。

【参加方法】

事前申し込みでの受付となります。

「氏名」及び「5月27日サイエンスカフェ参加希望」と書いたEメールをsciencecafe@devotion-japan.comあてにお送り下さい

【参加費】 無料 【定員】 30名

【アクセス】

銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結

千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分

<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/access/index.htm>

